

## 第4回「ICTの力で地域を応援するための検討会（試行）」実施報告

### 1. 試行実施報告書

- (1) 開催日時：平成29年9月21日（木）19:00～21:00
- (2) 開催場所：東京都港区虎ノ門 APPLIC 会議室
- (3) 名称：第4回 ICTの力で地域を応援するための検討会（試行）
- (4) タイトル：「読んで、つながる。力に変える。」
- (5) 参加者：7名（特別会員0団体、普通会员2団体、賛助会員1団体）
- (6) 使用書籍：「オープン・イノベーションの教科書」  
星野 達也氏 著 ISBN 978-4-478-03922-9



第4回は、星野達也氏の著書を取り上げ、オープン・イノベーションについてその意味と進め方について読み込みました。

さて、今回ご参加いただいた方が何故検討会に応募したのかについては、以下のようなご意見があげられました。

- ・オープン・イノベーションに無縁だから
- ・イノベーションとは何かを語るできるようになりたい
- ・新しい楽しみを見つけるため
- ・新たな発見を求めて
- ・新しい本との出会いを求めて
- ・イノベーションとは何かを考える

本日は、初めての参加者3名を含む7名が参加されました。スピード感についてくるのが精いっぱいという感じでありましたが、筋道は外すことなく議論が進みます。

第1章では、「オープン・イノベーション」の全体を読み込みました。ユーザのニーズが多様化し求めるレベルが高くなった現代においては、1社だけが「ひとり勝ち」を収めるようなソリューションが起こせるのか。海外ベンダーに勝つために達成すべきレベルは、我々会員

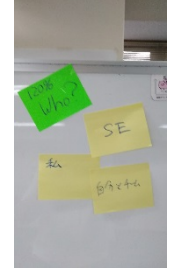
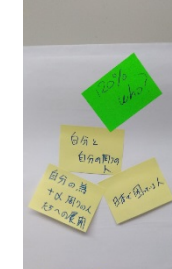
企業が「自社で達成できるレベル」を大きく超えている。世の中にある良いものを取り入れて、自社の強みを活かし Win-Win の連携こそが必要という著者の意図を汲み取れた。

また、オープン・イノベーションの誤解として、オープン化に取り組むと自社の情報が外に漏れだす、自社が空洞化して他社に技術移転されてしまうという点があることが分かった。しかし、オープン・イノベーションの真髄は、「インソーシング」であることから、社外から社内へ技術を取り込むため、技術は流出でなく流入することを理解できた。

2章、3章は、技術を求める主に大企業側の理論。4章、5章は、特異な技術を提供する主に中小企業側の理論を記載しているが、それぞれを時間を分けて解釈した。5章は、提案型の例として香川大学の事例をファシリテーターが要約した。

6章についても、オープン・イノベーションの応用としてダイナミックな米国のNFLの事例等をファシリテーターが要約したが、この規模感までくるとビジネスの「匂い」を感じることができ、オープン・イノベーションを活用した新たなビジネスモデルづくりをするという実感が湧いてくる。

今回は、オープンなイノベーションの作り方の手順と具体例について300頁余りを2時間で読破した。しかし、大切なことは速読法そのものではなく何故短時間で読破したのか。自分ひとりでできたのか。やはり、協力してくれる仲間の大切さ、集合知の重要性を参加者の皆さんにも再認識をさせていただきけたとも思う。



## 第3回「ICTの力で地域を応援するための検討会（試行）」実施報告

### 1. 試行実施報告書

- (1) 開催日時：平成29年9月13日（水）18:00～20:00
- (2) 開催場所：東京都港区虎ノ門 APPLIC 会議室
- (3) 名称：第3回 ICTの力で地域を応援するための検討会（試行）
- (4) タイトル：「読んで、つながる。力に変える。」
- (5) 参加者：3名（特別会員0団体、普通会员2団体、賛助会員0団体）
- (6) 使用書籍：「通信産業の経済学2.0」  
実積 寿也氏 著 ISBN 978-4-7985-0109-



第3回は弊会のアドバイザー中央大学教授実積寿也先生の著書を取り上げ、通信産業界と通信政策に焦点を当てて知識を習得する目的で有識者の見解を探求することとしました。大変難しい取組みになりましたが、その分第1回、第2回よりも得るものも大きい第3回開催となりました。

さて、今回ご参加いただいた方が何故検討会に応募したのかについてですが、以下のような欲求があげられました。

- ・通信ビジネスの立ち上げ方（手法）を学びたいから
- ・新たな分野への挑戦。自らが知らない世界を学びたい
- ・通信業界を経済の視点から見る書籍に関心があり、気づきを得たいから

本日の参加者は、すでにRead For Action体験済の方々でしたが、課題書籍をぱらぱらと眺めていた参加者も、「今日は手ごわい」という感触が伝わります。しかしながら、いつもどおりのRead For Actionの「型」を崩すことなく進行されます。

まず、参加者の皆さんに「改訂増補版はしがき」および「目次」を見て

頂き「どの章を読みたいか」投票をいただきました。その結果、第6章 通信サービスの生産 について本日はRead For Action 実施することになりました。

結果としては、一部の3次元図についてを除き、概ね我々なりに読み解き、通信業であったり通信サービスを展開する上で何が大切なのかを解釈できました。つまり、積滞しないサービス提供準備そしてそのための需要予測をいかに精密に行うかというポイントでした。

今回は、第6章を読むことでおそらくお一人では読むことのない難解な書籍であっても、周りの助けを借り互いに助け合い理解を深めることである一定の解釈を導き出し、あらたな知識として自分の中に蓄える。そして、不明点は更に調べる、ご教授を賜る機会を探す、作るというまさにActionに繋いでいく意識改革を体験することとなりました。

また、我々は地域活性化のためのビジネスモデルづくりをしていきたいということを仮に目的としたならば、書籍の全てを理解しなければ達成できないということではないと考えています。著者の知恵を大枠でも短時間で咀嚼し参加者ご自分の中に蓄積することで目的に向けて前進する「力」になるものと考えます。是非、再び機会を創り他の章についてもチャレンジしていきたいと思っております。



第3回開催を祝して記念撮影

## 第2回「ICTの力で地域を応援するための検討会（試行）」実施報告

### 1. 試行実施報告書

- (1) 開催日時：平成29年9月12日（火）19:00～21:00
- (2) 開催場所：東京都港区虎ノ門 APPLIC 会議室
- (3) 名称：第2回 ICTの力で地域を応援するための検討会（試行）
- (4) タイトル：「読んで、つながる。力に変える。」
- (5) 参加者：4名（特別会員0団体、普通会員1団体、賛助会員1団体から各1名  
総務省から2名）
- (6) 使用書籍：大前研一ビジネスジャーナル  
「2040年の崩壊 人口減少の衝撃/地域活性化の現状と課題」  
大前研一氏 著 ISBN 978-4-907554-15-6



9月8日開催の第1回に引き続き、地域活性化の現状と課題に焦点を当てて知識を習得する目的で有識者の見解を探求することとしました。

さて、今回ご参加いただいた方が何故検討会に応募したのかについてですが、自社内のみならず APPLIC を通じて他団体との対話により、新しい発想や気づきを得たい、業務上の課題を解決するためのメソッド、ツールを探しておりヒントになるのではないかと等挙げられました。

- ・自分の持っていないものを持っている人、新しい人に会えると思ったから
- ・自己啓発をしたい。業務においてよりクリアな言葉で完結に話したい
- ・自社の変革に向けた手法、メソッド模索に繋がる活動と感じたから
- ・興味があったから。Read For Action(RFA)に関心あり。イノベーションとは何を学びたかったのか。

いづれにしても、日頃の業務で何かを変えていかなくてはならないと感じている方が、「地域活性化について」もしくは「その手法そのもの」について知識を習得したい、体験したいという意欲あるメンバーにご出席いただきました。

さて、検討に入り「人口減少の衝撃」について、何に一番「衝撃」を与えるのか読み込みました。人口減少が止まらない中、社会を変えなければ人口動態が示す通りの未来がやってくるという主張を中心に「対話」をしました。

結論、国債の暴落に示されるような経済問題が一番衝撃的でインパクトがあるということを読み取り、ポイントとしました。次に、今回のメンバーとして著者が主張する提言の中で、どの提言が一番重要に思えるかを決めました。この結論は、「地方自治」でありました。つまり、国に頼るばかりでなく地方自治により地域を活性化させるという考え方に共感したようです。

全体を通じての感想では、RFAのスピード感に戸惑った方もいらっしゃいましたが、その意義や目的には参加者の共感が得られました。また、検討会終了後にも、今回の著者の論点について「賛否両論」対話が続きました。これは、まさしく、90分という時間で120頁余の書籍を読破し概ね内容を把握できたという証拠になりました。



第2回開催を祝して記念撮影

## 第1回「ICTの力で地域を応援するための検討会（試行）」実施報告

### 1. 検討会の試行開催について

地域が抱えている様々な課題に対応するには大きな力（パワー）が必要となります。我々APPLICが課題解決の一翼を担うとしたならば、普段から様々な情報を集め考えることにより「地域課題解決のための基礎体力」を養っておく必要があります。

今回、APPLICでは「書籍を読む」という活動を通じて、会員間の交流の「場」を創るのみならず、参加者の協働と助け合いにより「創造に向けた意識高揚」「地域活性化に向けた“対話”のための共通言語づくり」「会員団体職員の人材育成」を目的に検討会を試行します。なお、今後については、参加者アンケートの結果を公表し会員団体のご意見により決定してまいります。

### 2. 試行実施報告書

- (1) 開催日時：平成29年9月8日（金）19:00～21:00
- (2) 開催場所：東京都港区虎ノ門 APPLIC会議室
- (3) 名称：第1回ICTの力で地域を応援するための検討会（試行）
- (4) タイトル：「読んで、つながる。力に変える。」
- (5) 参加者：4名（特別会員1団体、普通会员2団体、賛助会員1団体から各1名）
- (6) 使用書籍：大前研一ビジネスジャーナル  
「2040年の崩壊 人口減少の衝撃/地域活性化の現状と課題」  
大前研一氏 著 ISBN 978-4-907554-15-6



第1回開催にあたり、やはりAPPLICの活動として地域活性化の現状と課題に焦点を当てて知識を習得する目的で有識者の見解を探求することとしました。

さて、今回ご参加いただいた方が何故検討会に応募し参加したのかについて

てですが、自社内のみならず APPLIC を通じて他団体との対話により、新しい発想や気づきに到達したいという理由が多かったように思われます。

- ・何か、新しい発見がありそうだと感じたため
- ・何か、気づきがほしいと感じているため
- ・人とのつながる機会を創れると感じたため
- ・興味があったから

また、今回の検討会はきっかけであり検討会で出会った方との関係を大切に継続し互いに良い影響を与え続けたいという考えや、職場の仲間、顧客、地域や住民の皆さんに良い影響力を与えていきたいという思いで集まられている方もいらっしゃいました。いづれにしても、自分自身が気づきを得ることで周囲に良い影響力を伝えていきたいという強い思いを感じます。

さて、検討に入り「人口減少の現状」「地域活性化の現状と課題」「対策対案」について読み込むと、今回の参加者は以下の3点を最重要ポイントであると結論付けました

- (1) 人口減少から経済が縮小することの危機感を実感することが大切
- (2) 地域経済を東京に向けるのではなく、グローバル市場に直接向けるという考え方
- (3) 地域連携での活性化の有効性

特に(2)について、具体例を挙げて議論を深め書籍の提唱する地域活性化の対策案についての理解を深めました。



検討会後の名刺交換の様子



第1回開催を祝して記念撮影